

日本応用経済学会ニューズレター

Japan Association of Applied Economics News Letter

第5号 2013年9月

日本応用経済学会事務局：〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学経済学部

TEL/FAX：092(642)4448

E-mail: jaae@econ.kyushu-u.ac.jp

<http://mweb.healthcare-m.ac.jp/>

目次

会長挨拶

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

研究室紹介

2013年度秋季大会のご案内

事務局だより

2012年度決算資料

2013年度予算資料

I. 会長挨拶

2013年9月
日本応用経済学会
会長 多和田 眞

1. はじめに

「全国大会で思うこと」

私が日本応用経済学会の会長を務めさせていただくようになって、およそ1年がたちました。その間、昨年11月の明海大学における秋季大会、今春6月の立命館大学での春季大会と2回の全国大会を行ってきました。明海大学では通常報告に加えて、「日本の雇用を考える」と題した特別セッションを企画し慶應義塾大学の太田聡一先生には若年者の雇用問題について、東京大学の柳川範之先生には現代の日本経済に適した雇用制度についての興味深い内容の講演を頂きました。大会実行委員長の前川俊一先生並びに実行委員の方々、そして会場を提供頂いた明海大学にあらためてお礼を申し上げます。

また今春の立命館大学での春期大会では招待講演に関西大学の本多佑三先生をお招きして、現在日本のマクロ経済の大きな論争となっている金融政策について先生の最近の研究成果を交えてお話いただきました。また、「新たな金融政策と日本経済が直面する課題」と題した特別セッションも企画されて、日本経済研究センターの愛宕伸康先生からは日本の直面する物価問題、法政大学の小黒一正先生からはアベノミクスと財政問題と、現代日本経済の最新的话题を提供頂きました。大会実行委員長の大川隆夫先生並びに実行委員の方々、そして会場を提供頂いた立命館大学にあらためてお礼を申し上げます。

本学会では年2回の全国大会を開催し、各

大会では招待講演や特別セッション、推薦講演等を企画・実現してきています。これまで多くの著名な研究者や若手の優秀な研究者、そしてそのときどきの重要なテーマに関連した研究者の講演を企画してきました。会員の皆様には大会を意義のあるものにするためにも、このような企画に対してのご意見や、講演頂きたい方の推薦等を是非事務局までお寄せ下さい。また招待講演や特別セッションへの参加者が少ないことも気になります。大会を盛り上げるためにはこのような企画への会員の積極的な参加をお願い致します。会員の皆様へのもう一つのお願いとして、大会での報告論文を学会の機関紙「応用経済学研究」に積極的に投稿頂きたいということです。「応用経済学研究」は毎号、質の高い論文が掲載されており、この学術的水準を保つためにも多くの積極的な投稿を歓迎致します。機関紙編集委員会も投稿論文にたいして、短期間での建設的な報告が出来るように努力をしていきますので、是非よろしくお願い致します。

II. 2013年度理事会報告

2013年度春季大会理事会報告

開催日：2013年6月15日(土) 11:00～12:00

開催場所：立命館大学BKCキャンパス エポック立命 K305

出席者：多和田、大住、成生、福重、田中、細江、秋山、内山、江副、大川、木原、慶田、坂上、中村、中山、林田、林、福澤、堀、前田、村田、焼田、藪田、山田、渡辺（以上理事）、小出（監事）、松波（次期開催校より）、内藤、野崎（以上事務局）

議題

1. 前回理事会以降申込のあったもの16名の入会、および5名の退会が承認された。
2. 秋山常務理事（財務担当）より2012年度会計報告が行われた。小出監事より監査の結果、適正であることが報告され、審議の結果、承認された。
3. 秋山常務理事（財務担当）より2013年度予算（案）について説明が行われ、承認された。
4. 山田編集委員長より、今年度学会誌への投稿・査読状況の説明がなされた。その後、今後の投稿数を増加させる方法について議論がなされた。
5. 藪田理事より国際交流の現況と今後の国際交流促進のための提案がなされ、今後の国際交流促進のため方法についての議論がなされた。
6. 松波淳也氏（法政大学）と小川光氏（名古屋大学）が新理事として推薦され、承認された。
7. 出版社より学会にテキスト出版の打診があったことが細江常務理事より報告があった。詳細については、次回、理事会で検討することになった。
8. 今年度の秋季大会は11月16日（土）、17日（日）に法政大学多摩キャンパス（東京都町田市）にて開催されることになり、大会実行委員長の松波淳也教授より挨拶と準備についての説明が行われた。

9. 学会事務局ならびに編集事務局のメールアドレス変更について報告があった。現在HPで、会員には周知している。

新アドレスは以下の通り

事務局:

jaae@econ.kyushu-u.ac.jp

編集事務局:

jaae-edit@econ.kyushu-u.ac.jp

(以上)

III. 「応用経済学研究」編集委員会報告

「応用経済学編集委員会」委員長

山田光男（中京大学）

1. 第6巻の刊行について
第6巻は2013年2月に刊行された。第6巻では、第5巻刊行前に投稿され継続審査となっていた論文1本、その後投稿された論文21本の計22本の論文が査読対象となった。このうち、8本の研究論文と1本の研究ノートが掲載された。
2. 第7巻の編集について
第7巻については、2014年2月に刊行の予定である。今年度投稿の出だしは少なく、6月の段階では継続審査となっていた6本に加えて4本の投稿のみであった。その後関係各位のご協力により投稿8本が追加され、合計18本が審査対象となっている。9月末日の段階でも掲載決定論文が3本、審査中が9本と、編集上厳しい状況が続いている。
当学会誌の質を維持しつつ、日程通りの編集発刊を進めていくためには、投稿論文数を拡大するだけでなく、投稿のタイミングを早期化する必要がある。その意味では、2013年

秋季大会の報告論文からより多くの投稿を得られるよう、関係各位のさらなるご協力をお願いしたい。

3. 編集委員会について

第7・8巻の編集体制は、編集委員長山田光男（中京大学）、副委員長として福重元嗣氏（大阪大学）、中村保氏（神戸大学）の両氏と、編集委員として阿萬弘行氏（関西学院大学）、伊ヶ崎大理氏（日本女子大学）、石川路子氏（甲南大学）、大住康之氏（兵庫県立大学）、小川光氏（名古屋大学）、徳永澄憲氏（筑波大学）、林田実氏（北九州市立大学）、村田省三氏（長崎大学）、安岡匡也氏（関西学院大学）の9名（50音順）で構成している。また、編集委員会事務局は、編集委員長、副委員長の3名が担当している。

なお、韓国経済通商学会機関誌『経済研究』及び韓国応用経済学会機関誌'Korean Review of Applied Economics'との協定により、編集委員の相互乗り入れが行われている。これについては前年度からの変更はなく、前者については、韓国側からは Chongung Kim 氏 (Daegu Hanny University) と Iltae Kim 氏 (Chonnam National University) が『応用経済学研究』の編集委員に、日本側から小川光氏（名古屋大学）と内田交謹氏（九州大学）が『経済研究』の編集委員に加わっており、後者については韓国側からは Jungsoo Park 氏 (Sogang Univeristy) と Byeongseon Seo 氏 (Korea University) が『応用経済学研究』の編集委員となり、日本側からは依田高典氏（京都大学）と焼田党氏（名古屋市立大学）が 'Korean Review of Applied Economics' の編集委員になっている。

IV. 2012 年度学会賞について

2012 年度学会賞について

学会賞選考委員長

福岡女子大学 大住圭介

学会賞

焼田 党（名古屋市立大学）

（選考理由）

焼田氏は、対象論文において①出生と社会保障 ②公債の持続可能性の問題を理論的に検討することを通して、喫緊の経済問題の解明に大きな貢献をしている。また、焼田氏は、種々の身近な経済問題を真摯に解明することを企図しており、その研究成果は、海外の一流の査読ジャーナルに掲載されている。以上のことより、本選考委員会は焼田氏の国内外での研究業績が、応用経済学の発展に貢献するものであり、学会賞に値するものであると評価する。

（選考対象論文）

- ① "Fertility, child care outside the home, and pay-as-you-go social security," *Journal of Population Economics* (2009), 22 (3) : 565-583, with Makoto Hirazawa
- ② "Sustainability of public debt, public capital formation, and endogenous growth in an overlapping generations setting," *Journal of Public Economics* (2008), 92, 879-914

奨励賞

海老名 剛（東京理科大学）

海老名氏は、対象論文において価格差別の一形態である「抱き合わせ販売」の問題をとりあげ、興味深い身近な経済問題の解明に寄与

している。また、推薦者の言にあるように、広範囲にわたる研究分野で活躍しており、今後とも応用経済学の発展に充分貢献すると期待される。以上の理由に基づき、本選考委員会は、海老名氏が奨励賞の受賞に値すると判断する。

(選考対象論文)

『著作物小売販売とパッケージ割引』応用経済学研究第6巻掲載(安達貴教氏と共著)

学術論文賞

荒川 潔(大妻女子大学)

従来、多くの競争形態において従価税のほうが従量税よりも望ましいという見解が一般的であった。それに対して、荒川氏は、より現実的な市場を想定し、企業の品質選択行動をモデルに組み込むことによって、従量税のほうが従価税よりも好ましい状況があることを理論的に解明した。この研究は、新たな議論の可能性を提示しており、応用経済学の今後の発展に寄与すると期待される。以上の理由に基づき、本選考委員会は荒川氏が学術論文賞の受賞に値すると判断する。

(選考対象論文)

『垂直的差別化された複占市場における重量税と従価税の比較』応用経済学研究第6巻掲載

V. 国際交流委員会報告(ここから)

国際交流委員会報告

「2013年韓国応用経済学会に参加して」
国際交流担当理事 中央大学 藪田雅弘

日本応用経済学会では、韓国応用経済学会

(KAAE)、韓国経済通商学会(KEBA)ならびに中国数量経済学会(CAQE)と交流を継続的に行っており、これまでのニューズレターでも報告されていますように、研究者が相互の学会に参加する形で応用経済分野の発展に寄与しています。日本・中国・韓国の研究状況や情報を交換し把握するのみならず、各国間の親睦、理解の発展に寄与するものと考えています。とくに若い世代にとって派遣のチャンスです。今後も積極的に参加していただきたいと思います。なお日程ですが、KAAEについては毎年春(3-4月ごろ)、KEBAは毎年秋(10-11月ごろ)、また、CAQEは隔年で7月ごろの開催となっています。開催期日については、メールにて逐次会員の皆様に募集をいたしますのでどうぞお心積もり下さい。

私(藪田)は、2013年度の韓国応用経済学会定期学術大会に参加する機会を得ましたので報告させていただきます。大会は2013年4月19日にソウル市内の高麗大学で開催されました(写真)。学会からは、京都産業大学の尾崎タイヨ先生、東京大学の林正義先生、中央大学の松本昭夫先生と私の計4名が参加し報告しました。英語のセッションと韓国語のセッションが設けられており、熱心で活発な議論が行われ大変充実した大会になりました。また、大会終了後、市内のレストランで懇親会があり、KAAEの先生交流を深めることができました。大変ホスピタリティあふれる運営で大変感謝いたしております。記して感謝申し上げます。



(会場の高麗大学)

VI. 紹介！研究室

今回から会員の先生方の研究室をご紹介させて頂くことになりました。第1回目は、熊本学園大学経済学部の坂上智哉先生の研究室紹介です。

坂上智哉

(熊本学園大学経済学部教授)



熊本学園大学の坂上です。第1回の「研究室紹介」ということで、私の研究について紹介をさせていただきます。私の本業は経済成長理論ですが、このところネットワーク形成についての理論とシミュレーションの研究も進めています。

ネット上やリアルな世界で、我々は様々なネットワークを構築し、情報を発信・共有しています。一般的にネットワークは、各ノード（経済主体）をリンク（線）で結んだグラフで表します。リンクを結ぶと、そこから利得や効用を得ることができますが、同時にリンク維持費用もかかります。これらを考慮に入

れて、各ノードは誰とリンクを結ぶのかという意思決定を行うのです。ネットワーク形成に関する研究は、スタンフォード大学の M.O. Jackson 教授が 2008 年に著書 *Social and Economic Networks* を出版したことで、企業間取引のバーゲニング・パワーの研究 (Manea, AER, 2011) など、幅広い分野に応用されてきています。

私は現在、研究室 OB の井上寛規氏（京都大学経済研究所）らとともに、最適航空ネットワークに関する研究を行っています。今後は、ネットワークと経済成長の関係も分析してみたいと考えています。

VII. 秋季大会について

2013 年度日本応用経済学会秋季大会は 11 月 16-17 日に法政大学の松波淳也先生を大会委員長として準備が進められております。会員の皆様には奮ってご参加のほど、よろしくお願い致します。

VIII. 事務局便り

厳しい暑さがようやく解放されるようになりました。先日、立命館大学で開催されました春季大会では大変お世話になりました。とくに、大会実行委員会委員長の大川隆夫先生はじめ各委員の先生方、また、プログラム委員会の皆様には感謝申し上げます。お陰様で多くの方々の参加があり、喜んでおります。大会が皆様の有意義な学術交流の場としてより一層の評価を受けるように頑張っていきたいと思います。

(ニューズレター作成担当 内藤徹 (徳島大学))

平成24年度 日本応用経済学会 会計報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

資料2

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	1,776,609	1,776,609	0
会費収入	2,770,000	2,927,000	157,000
参加料収入	560,000	506,000	▲ 54,000
懇親会費収入	240,000	198,000	▲ 42,000
学会誌収入(掲載料他)	180,000	135,000	▲ 45,000
利子収入		113	113
福岡大学より		20,000	20,000
(H24収入小計)	3,750,000	3,786,113	
合計	5,526,609	5,562,722	36,113

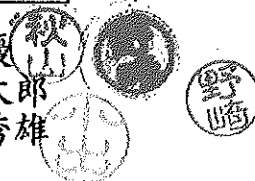
2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	100,000	100,020	▲ 20
消耗品費	100,000	89,464	10,536
事務補助費	350,000	362,940	▲ 12,940
学会開催補助費	600,000	600,000	0
懇親会補助費	240,000	198,000	42,000
理事会開催補助費	100,000	82,875	17,125
各種委員会開催費	50,000	0	50,000
シンポジウム等補助金	200,000	213,085	▲ 13,085
学会賞	60,000	48,550	11,450
国際交流費	350,000	114,960	235,040
払込手数料	50,000	37,905	12,095
学会誌購入	1,650,000	1,643,355	6,645
雑費	50,000	42,696	7,304
予備費	1,764,058	0	1,764,058
小計	5,664,058	3,533,850	2,130,208
繰越金		2,028,872	
合計	5,664,058	5,562,722	101,336

上記の通り報告致します。

監査の結果、上記相違ありません。

会計担当理事 秋山 優
 会計担当幹事 野崎 竜太郎
 監事 小出 秀雄



平成25年度 日本応用経済学会 予算

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	2,028,872	
会費収入	2,890,000	(8,000円×330人)+(5,000円×50人)
参加料収入	500,000	2,000円×125人×2回
懇親会費収入	220,000	{(1,000円×10人)+(2,000×50人)}×2回
学会誌収入	150,000	掲載料15,000円×10人
利子収入		
(H25収入小計)	3,760,000	
合計	5,788,872	

2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	100,000	
消耗品費	100,000	
事務補助費	350,000	150,000+200,000円
学会開催補助費	600,000	300,000円×2回
懇親会補助費	220,000	懇親会費収入と同額
理事会開催補助費	100,000	50,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シンポジウム等補助金	200,000	
学会賞	60,000	
国際交流費	350,000	(2人2泊5万円+旅費2人10万円)*(派遣+招待)
払込手数料	50,000	
学会誌購入	1,780,000	
雑費	50,000	
小計	4,010,000	
予備費	1,778,872	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	5,788,872	